

「この人 54」

加藤 賢 72 歳 大阪府

編集部 俳句を始められたのは？

加 藤 五十五歳からです。退職後の余生の過ごし方として、独りでも楽しめる俳句とクラシック音楽を聴くことを選びました。

編集部 滑稽俳句の魅力は？

加 藤 正面きって言い難い本音を、嫌味なく述べて共感し合える点にあると思います。

編集部 俳句における滑稽とは？

加 藤 俳句の要諦は、「発見」にあると言われます。成程と言う「発見」が決まった時、滑稽も上質のものになるのではないかと思いますね。

編集部 滑稽俳句を続けていて良かったことは？

加 藤 滑稽感と俳句とは不即不離の関係にありますので、むしろ俳句を続けていて良かったことと申し上げるべきでしょうか。日々の生活に張り合いがありますね。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

加 藤 物事を正面からばかりでなく、少しズラして眺めること。ただし、判っていても中々、上手に作れないのが口惜しい限りです。

【代表句】

金輪際裏からは見ず菊人形
推敲の手遅れなりし落し文
もの忘れ兆すわれらの忘年会
浮寝鴨嫌な奴には薄目して
用足すに山鉾を下りがたきかと